

最近、障がい者との交流やボランティアを通じて、障がいについて差別や偏見なく考える人が増えてきていると思います。それは私にとってとても嬉しいことです。

そうはいつでも、世の中には障がい者を軽蔑の目で見るとような人が少なくありません。「障がい者は不幸をつくることしかできない。」「障がい者って気持ち悪い。」そんな言葉を私は以前耳にしました。なぜそんな事を思うのか、私には理解できません。私はその言葉を思い出すたびに胸が痛みます。みんな好きで障がいをもったわけではないんです。今、たとえ健康に暮らしているとしても、私達は今日、事故に遭うかもしれない、大きな病気にかかるかもしれない、いつ何が起こるかは分かりません。たとえ今は障がいと無縁でも、私達は障がいをもつという事といつも隣り合わせで、決して他人事ではないんです。だから、差別されるのはおかしいです。

私は、中学の時、特別支援学級の子とよく話したり、一緒に下校したりしていました。そして私は、いつもその前向きさに驚かされていました。「普通に学校に通えて楽しい。」「今日ピアノなんだ。」「今日はね、スウィミングなの。」しかもいろんな事に挑戦していて、やる気に満ち溢れていました。障がいを理由に逃げていない、それどころか自分のできる限りの事をしていました。きっと辛い事、大変な事はいっぱいあるだろうに、いつも笑顔で、前向きでした。そんな姿を見て、私は自分のネガティブさが情けなく思えました。私達は歩ける事、喋れる事を当たり前だと思ってしまっています。だから、障がい者への差別が生まれるんだと思います。私達が、自分の基準でしか考えられない「ジコチュー」なんです。

障がい者は確かに不自由なところがあります。でも、入院や手術を乗り越える強い精神力を持っています。そして、少しでもその不自由な部分をカバーしようと人一倍努力しています。私はその強さを知って尊敬の気持ちでいっぱいになりました。どこにバカにする要素があるでしょうか。

多くの人々の障がい者への見方が良い方向へと変われば、もっともっと障がい者にとって居心地の良い環境ができていくと思います。「誰かが」ではなく、「誰もが」自然と手を差し伸べられるようになったら、とても素敵だと思います。